

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
【発行日】令和 4 年 10 月 28 日(2022.10.28)

【公開番号】特開 2021-115338(P2021-115338A)  
【公開日】令和 3 年 8 月 10 日(2021.8.10)  
【年通号数】公開・登録公報 2021-036  
【出願番号】特願 2020-12047(P2020-12047)  
【国際特許分類】  
A 6 3 F 5/04(2006.01)  
【F I】  
A 6 3 F 5/04 6 5 3

10

【手続補正書】  
【提出日】令和 4 年 10 月 20 日(2022.10.20)  
【手続補正 1】  
【補正対象書類名】特許請求の範囲  
【補正対象項目名】全文  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【特許請求の範囲】  
【請求項 1】

20

前扉と、

筐体と、

所定の制御基板と、

前記所定の制御基板を収容する所定の基板ケースと、

遊技メダル投入口と、

前記遊技メダル投入口から投入された遊技メダルが通過する通路中に設けられ、遊技メダルを検知し得る検知手段 A、検知手段 B、及び検知手段 C（前記検知手段 B は、前記検知手段 A より下流側に位置し、前記検知手段 C は前記検知手段 B より下流側に位置する）と

30

を備え、

前記前扉と前記筐体とが施錠可能であり、

前記所定の基板ケースは前記筐体の内部に取り付けられるよう構成されており、

前記筐体の背面を構成する部材には、第 1 の開口部と第 2 の開口部とが少なくとも形成されてあり、

前記第 1 の開口部の最大長さは 100 mm 以上であり、且つ前記第 1 の開口部の大きさは前記所定の基板ケースが通過できない大きさとなっており、

前記第 1 の開口部から作業者の手指を挿入して解錠部に対して解錠操作が行われることにより前記前扉と前記筐体とを解錠可能となっており、

前記解錠部は前記第 2 の開口部から視認可能となっており、

40

所定の状況にて、前記遊技メダル投入口から遊技メダルが投入された場合において、当該遊技メダルに対する前記検知手段 A と前記検知手段 B の検知結果が所定条件を満たすと、クレジット数に「1」を加算し得るよう構成されており、

所定の状況にて、電源の供給が遮断される事象が発生した時から、当該電源の供給が遮断される事象を検知し、電源断処理を実行する時までの期間の設計値を T1 とし、

所定の状況にて、前記遊技メダル投入口から遊技メダルが投入された場合における、当該遊技メダルを前記検知手段 B が検知した後に当該遊技メダルを前記検知手段 B が検知しなくなった時から、当該遊技メダルを前記検知手段 C が検知した時までの期間の設計値を T2 としたとき、

T1 < T2 となっている

50

遊技機。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００５】

本態様に係る遊技機は、

前扉と、

筐体と、

所定の制御基板と、

前記所定の制御基板を収容する所定の基板ケースと、

遊技メダル投入口と、

前記遊技メダル投入口から投入された遊技メダルが通過する通路中に設けられ、遊技メダルを検知し得る検知手段Ａ、検知手段Ｂ、及び検知手段Ｃ（前記検知手段Ｂは、前記検知手段Ａより下流側に位置し、前記検知手段Ｃは前記検知手段Ｂより下流側に位置する）とを備え、

前記前扉と前記筐体とが施錠可能であり、

前記所定の基板ケースは前記筐体の内部に取り付けられるよう構成されており、

前記筐体の背面を構成する部材には、第１の開口部と第２の開口部とが少なくとも形成されており、

前記第１の開口部の最大長さは１００ｍｍ以上であり、且つ前記第１の開口部の大きさは前記所定の基板ケースが通過できない大きさとなっており、

前記第１の開口部から作業者の手指を挿入して解錠部に対して解錠操作が行われることにより前記前扉と前記筐体とを解錠可能となっており、

前記解錠部は前記第２の開口部から視認可能となっており、

所定の状況にて、前記遊技メダル投入口から遊技メダルが投入された場合において、当該遊技メダルに対する前記検知手段Ａと前記検知手段Ｂの検知結果が所定条件を満たすと、クレジット数に「１」を加算し得るよう構成されており、

所定の状況にて、電源の供給が遮断される事象が発生した時から、当該電源の供給が遮断される事象を検知し、電源断処理を実行する時までの期間の設計値をＴ１とし、

所定の状況にて、前記遊技メダル投入口から遊技メダルが投入された場合における、当該遊技メダルを前記検知手段Ｂが検知した後に当該遊技メダルを前記検知手段Ｂが検知しなくなった時から、当該遊技メダルを前記検知手段Ｃが検知した時までの期間の設計値をＴ２としたとき、

$T1 < T2$ となっている

遊技機である。

<付記>

尚、本態様とは異なる別態様について以下に列記しておくが、これらには何ら限定されることなく実施することが可能である。

本別態様に係る遊技機は、

複数のリールと、

複数のストップスイッチと、

スタートスイッチと、

演出を表示可能な演出表示部と、

音を出力するスピーカと

を備え、

演出表示部には、

複数のゲームに亘って実行される演出である連続演出を表示可能であり、

連続演出の実行中には、連続演出が次ゲームにも実行され得ることを示唆する継続画像

10

20

30

40

50

を表示可能であり、

連続演出の実行中には、連続演出 B G M の出力が行われ、  
継続画像の表示中は、連続演出 B G M の出力が継続される  
ことを特徴とする回胴式遊技機である。

10

20

30

40

50